

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00229

研究課題名（和文）1990年代東アジア・東南アジアへのアニメ輸出における音声の現地化の比較研究

研究課題名（英文）Voice Localization in Anime Exports to East and Southeast Asia in the 1990s

研究代表者

石田 美紀（Ishida, Minori）

新潟大学・人文社会科学系・教授

研究者番号：70425007

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：2018年に韓国、2019年にシンガポールにて、日本アニメの吹き替えに従事した声優、現地コンテンツ産業関係者、ファンにインタビュー調査を行った。2020年以降のコロナ禍では、台湾の研究者とオンラインで情報交換を行い、2021年3月にオンライン国際会議「アニメ研究を切り開く声とアーカイブ」のラウンドテーブルで、討論を行った。アニメの声の現地化は、輸出先の政治的・社会的・メディア的文脈を直接反映するものであることが明らかになると同時に、日本国内におけるアニメ研究の盲点であることが判明した。研究成果の一部として、2022年に研究代表者・分担者は編著『グローバル・アニメ論』を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アニメがグローバルな娯楽として楽しまれていることは、周知の事実である。しかし、海外で実際どのようにアニメは受容されているのか。本研究は、日本国内の視聴者向けに制作されるがために、日本語で演じられるキャラクターの声が、いかに現地化されているのかに注目し、アニメのグローバルな受容の一端を明らかにした。アニメが大人も楽しむメディアとして日本社会に定着した90年代に、輸出先の東アジア・東南アジアでは、それぞれの言語事情や、日本アニメ産業とのかかわり方の違いによって声優産業の規模も異なっていたことが判明し、従来の国内研究では注目されない声の現地化の多様性を明らかにできた。

研究成果の概要（英文）：In 2018, in South Korea, and in 2019, in Singapore, we conducted interview surveys with voice actors engaged in dubbing Japanese anime, people involved in the local anime industry, and anime fans. During the pandemic from 2020 onwards, we exchanged information online with Taiwanese researchers, and in March 2021, we held a roundtable discussion at the online international conference "Beyond Theorizing Anime: Voices and Archiving." It became clear that the localization of anime voices directly reflects export-oriented, social, and media contexts, and at the same time, it was found to be a blind spot in anime research in Japan. As part of the above results, in 2022, the principal investigator and co-investigator published the edited book "Global Anime Theory".

研究分野：アニメーション研究

キーワード：アニメ 声 現地化 声優 吹き替え 字幕 ファン

1. 研究開始当初の背景

アニメ(日本製の商業アニメーション)が国外へと輸出されるとき、その音声は現地化されることになる。ただし全ての場合において、現地語に吹替えられるのではなく、字幕が付けられることもある。吹替か字幕かという選択は、技術的・経済的問題に留まらず、他者の受容という複雑な文化的事象に直結している。本研究は、アニメの受容状況が異なる韓国・シンガポール・台湾を対象とし、輸出時に顕在化する「音声の現地化」を、現地の配給メディアによる選択と、視聴者による声優の声の受容の両面から分析する。調査対象となる時代は日本においてアニメが若者文化の一翼を占め、声優のスター化が進み、若者向けの作品が国外に輸出された **1990** 年代である。本研究は、調査地各地のアニメ研究者と協力し、「音声の現地化」について各地のアニメ輸入関連業界及び視聴者への聞き取り調査を行い、声優の声がいかに視聴者に働きかけ、また視聴者がいかにそれを受容しているのかを、メディア環境構成要素から明らかにすることで、アニメ受容の多様性と多層性を捉えることを目指した。

2. 研究の目的

本研究の目的とその独自性は以下の **2** 点に集約される。

1) アニメ輸出における聴覚面の再考

従来、アニメ研究は視覚面の分析に偏り、アニメの海外輸出とその受容に関しても、その視覚的側面が重視されてきた。結果、アニメの輸出において音声の現地化は必要不可欠な工程であるにもかかわらず、従来考察の対象とはなってこなかった。本研究はアニメ研究における無関心を補うべく、現地化における聴覚的側面、とりわけキャラクターの配役に再度光を当てた。

2) キャラクター/声優の声の受容というミクロなレベルに立脚したアニメ輸出の分析

本研究が調査対象とする韓国、台湾、そしてシンガポールは、いずれも日本の近接地域に位置しながらも、日本との政治的・社会的・経済的交渉はそれぞれに異なっている。これらの要素はアニメ輸出と深く結びついているのではないかと。本研究は、視聴者がキャラクター/声優の声と取り持つ関係が、巨視的なレベルからの分析だけでは掬いきれない複雑な文化現象であることに注目した。

本研究は日本国内で大きな成功を収め、かつ韓国・台湾・シンガポールにおいて青年層のファンの間で高い人気を博している『新世紀エヴァンゲリオン』(**1995-96**)を主たる分析対象とした。同作は韓国において最初に字幕付きで放送されたアニメ(韓国における初公開は **1996** 年の吹替版ビデオの販売であり、**2004** 年にケーブルテレビ **AniOne** で字幕版が放映された)であり、青年層のアニメファンの原語への欲求を喚起した作品である。同作に関する各地の「音声の現地化」を、視聴者層(年齢、性別、趣向)、メディア環境(地上波テレビ、ケーブルテレビ、衛星放送、インターネット、ビデオ、**DVD**、**BD**)、各地のショービジネスにおける声優の位置づけと、その活動範囲、音声の現地化に関するアメリカ製アニメーションとアニメの比較、アニメーション産業の成熟度といった観点から分析し、ミクロなレベルに立脚してアニメ輸出とその受容を分析した。

3. 研究の方法

1990 年代以降アニメが日本とは異なる政治的・社会的・文化的・メディア的環境(韓国・台湾・シンガポール)へと移される時の吹替と字幕の選択理由と、各地における声優の声の受容を併せ

て分析しながら、いまだに明らかにされていないアニメにおける音声の現地化が、いかなる力学の下で実践されているのかを明らかにするために、以下の5項目を調査の重点項目に設定した。

- (1) 視聴者層(年齢、性別、趣向)と吹替・字幕との関連
- (2) 媒体(地上波テレビ、ケーブルテレビ、衛星放送、インターネット、ビデオ、DVD、BD)と吹替・字幕の選択の関連
- (3) ショービジネスにおける声優の位置づけとその活動範囲
- (4) アメリカ製アニメーション(ディズニーおよびピクサー)における音声の現地化とアニメにおける音声の現地化の比較
- (5) 各地のアニメーション産業の成熟度

これらの項目、さらには各項目間の相関関係を、韓国・シンガポールにおいて現地調査した。調査結果の詳細は以下である。

2018年度：研究代表者石田美紀(新潟大学：視聴覚文化論、声優研究)と研究分担者 Kim Joon Yang(新潟大学：アニメーション研究・メディア理論)は、ソウルにおいて、韓国語版『新世紀エヴァンゲリオン』において主人公碇シンジ役を演じた声優アン・ギョンジン氏と、加持リョウジ役を演じた声優キム・ファンジン氏にインタビューし、韓国における吹替制作版の環境と韓国の声優界を調査した。また、日本のアニメ・マンガ研究者であり、韓国語翻訳者である宣政佑氏に韓国における声優ファンについてインタビュー調査をおこなった。韓国での調査の後、日本においてマンガ・ゲーム産業に従事する韓国人の声優ファンにインタビューし、『新世紀エヴァンゲリオン』日本・韓国版における声の演技を彼らがいかに捉えていたのかを調査を行い、90年代半ばの日韓におけるアニメの文化的・社会的立場の違いを明らかにした。

2019年度：シンガポールにて、日本マンガの輸入ライセンスビジネス従事者、現地のアニメーション制作会社経営者、マンガ・アニメ研究者にインタビュー調査を行い、『新世紀エヴァンゲリオン』の視聴経験について調査した。モノリンガルの韓国とは異なり、マルチリンガルかつ英語が主流公用語であるシンガポールにおける音声の現地化では、英語字幕が主である。しかし、『新世紀エヴァンゲリオン』は英語字幕版だけでなく、中国語吹替版が台湾・香港経由でシンガポールに輸入され、中国系シンガポール人共同体のなかで幅広く流通していた。吹替か字幕かという音声の現地化の選択は、現地の言語状況と深く関わっていること、それと同時に視聴者が属する言語共同体には吹替版も流通しているという二重状況があることが判明した。

2020年度：研究計画立案時においては、台湾における現地調査を予定していたが、2020年初頭からのコロナ禍のため、実行不可能となった。その代替方法として、オンラインを活用したインタビュー調査を台湾の蔡錦佳氏(台湾アニメーション史、日台マンガ交渉研究)に行った。2021年3月6日にはオンラインにて国際会議「アニメ研究を切り開く 声とアーカイブ Beyond Theorizing Anime: Voices and Archiving」を開催し、同会議の一部である「ラウンドテーブル声」において、蔡氏と宣氏が台湾および韓国におけるアニメの音声の現地化について報告を行い、石田とともに議論を行った。

4. 研究成果

各年度成果は以下である。

2020 年度

研究代表者石田と研究分担者 **Kim** は **2018 年度・2019 年度**に実施した韓国とシンガポールにおける声とその現地化の調査を踏まえ、以下の発表をおこなった。

単著刊行：石田美紀『アニメと声優のメディア史 なぜ女性が少年を演じるのか』（青弓社、**2020**年）

国際会議「アニメ研究を切り開く：声とアーカイブ **Beyond Theorizing Anime: Voices and Archiving**」開催と、同会議ラウンドテーブル「声」における石田美紀「音声の現地化から考察する **90 年代アニメの 東・東南アジアにおける受容**」の発表（**2021 年 3 月 6 日**）。

2021 年度

論文：Minori Ishida “Voice Actress Rising: The Multilayered Stardom of Megumi Ogata in the 1990s”, *Anime Studies : Media-Specific Approaches to Neon Genesis Evangelion* (Stockholm University Press, 2021)

学会における発表：石田美紀「オープニング・エンディングから考えるリミテッド・アニメーションにおける音と映像の関係」シンポジウム「オーディオヴィジュアルの歴史における「アニソン(1960/1990)」：テレビまんが・音盤・ノスタルジー」(表象文化論学会、**2021 年 7 月 3 日**)。

2022 年度：

共編著刊行：**2021 年 3 月**に開催した国際会議「アニメ研究を切り開く：声とアーカイブ **Beyond Theorizing Anime: Voices and Archiving**」における発表・討論を編集し、石田美紀・キム・ジュニアン編著『グローバル・アニメ論 身体/アーカイブ/トランスナショナル』（青弓社、**2022**年）を刊行した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Minori Ishida	4. 巻 2
2. 論文標題 Voice Actors Synchronised with Other Human Agents: An Analysis of the Afureko Script	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Archiving Movements: Short Essays on Anime and Visual Media Materials	6. 最初と最後の頁 33-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Minori Ishida	4. 巻 29
2. 論文標題 Deviating Voice. Representation of Female Characters and Feminist Readings in 1990s Anime	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IMAGE. Journal of Interdisciplinary Image Science	6. 最初と最後の頁 22-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 3件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 石田美紀
2. 発表標題 音声の現地化から考察する90年代アニメの 東・東南アジアにおける受容
3. 学会等名 アニメ研究を切り開く: 声とアーカイブ Beyond Theorizing Anime: Voices and Archiving (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石田美紀
2. 発表標題 オープニング・エンディングから考えるリミテッド・アニメーションにおける音と映像の関係
3. 学会等名 表象文化論学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石田美紀
2. 発表標題 声優のスター化におけるアニメ雑誌の役割－1970年代末の事例に即して
3. 学会等名 日本アニメーション学会第22回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Minori Ishida
2. 発表標題 Possibilities of Voice Acting: On Voice Actresses Playing Boys Roles
3. 学会等名 International Symposium: Theorizing Anime: Invention of Concepts and Conditions of Their Possibility (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minori Ishida
2. 発表標題 Rethinking EVA from the Performance of Voice actresses
3. 学会等名 Anime. Una perspectiva transdisciplinar. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 石田 美紀	4. 発行年 2020年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 224
3. 書名 アニメと声優のメディア史	

1. 著者名 石田 美紀、キム・ジュニアン	4. 発行年 2022年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 242
3. 書名 グローバル・アニメ論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

国際コンファランス アニメ研究を切り開く：声とアーカイブ https://confit.atlas.jp/guide/event/acasin2021/participant_login;jsessionid=2C2E05C79DD96B90B74F41CEDD1D0117?eventCode=acasin2021 https://www.arc.niigata-u.ac.jp/news/1766/ Anime. Una perspectiva transdisciplinar. http://grupodx5.webs.uvigo.es/Anime-Una-perspectiva,243.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	Kim JoonYang (Joon Yang Kim) (00749955)	新潟大学・人文社会科学系・准教授 (13101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 アニメ研究を切り開く：声とアーカイブ Beyond Theorizing Anime: Voices and Archiving	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際コンファランス「アニメ研究を切り開く：声とアーカイブ」	開催年 2021年～2021年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------